



準備の鉄則 ～目標との距離をつかむ！～

スランプは誰にでもやってくる

前号に引き続き、「実戦的学力伸長曲線」に関するお話です。ステップアップ①で必死に記述問題対策に取り組んだ後、10月頃から多くの受験生が「自分はスランプに陥ったのではないか」と思い始めます。模試の結果も、夏にあれだけ頑張ったのに向上かない。でも、それは当然なのです。全国の進学校の生徒が7月頃から本気になって受験準備に取り組み始めます。加えて、この頃までは、浪人生のアドバンテージも生きています。偏差値はあくまでも相対的なものです。ここでモチベーションを落とさず、今までの方針どおりにやり続けることが、12月以降の飛躍的な伸びにつながるのです。

ステップアップ③が大切なわけ

大学入学共通テストが終わり、翌日の月曜日には自己採点を行います。ここから出願まで約2週間。わずか2週間と侮るなかれ。今までの努力が結実し、爆発的に力が伸びるのが、この2週間なのです。よく言われるように、「**現役生は試験当日まで伸びる**」。これは本当です。難関を突破した先輩たちも、この時期、まったくぶれずに集中できたからこそ、目標に到達できたのです。逆に、自己採点後、出願校であれこれ迷い、今までのペースを崩してしまった人は、最後のひと伸びを経験しないまま現役を終えることになってしまいます。この時期を生かすためには、早い段階から出願校のセット(前期-中期-後期)を検討しておくこと。その際、第2志

2020_金沢大学合格者入試結果				
	センター試験配点(上段)/個別学力試験配点	前期合格最低点(総合点)	センターBライン	個別学力目標得点率
経済学類	950点(英250・国200・数200・地歴200・理科100)	1033点/1550点(66.6%)	694点/950点(73.0%)	339点/600点(56.5%)
	600点(英300・数300)			
2019_北海道大学合格者入試結果				
	センター試験配点(上段)/個別学力試験配点	前期合格最低点(総合点)	センターBライン	個別学力目標得点率
経済学部	300点(英200×0.3・国200×0.3・数200×0.3・地歴公民200×0.4・理科100×0.4)	494点/750点(65.9%)	240点/300点(80.0%)	254点/450点(56.4%)
	450点(英150・国150・数150)			
2019_東京大学合格者入試結果				
	センター試験配点(上段)/個別学力試験配点	前期合格最低点(総合点)	センターBライン	個別学力目標得点率
文科II類	900点(英200・国200・数200・地歴200・理科100) × α = 110点	358点/550点(65.1%)	819点/900点(91.0%)	258点/440点(58.6%)
	440点(英120・国120・数80・地歴120)			

望、第3志望の大学についても手を抜かずしっかり調べる。どの大学にも、必ずその大学の個性、魅力があるものです。**大学入学共通テストで得た点数を最大限生かす**ということが、本当に賢い選択と言えるのです。

記述力の有無が合否を分ける

上の表を見てください。国公立大学は大学入学共通テストの得点と2次の個別学力試験の得点の合計で決まります。センターBラインは河合塾のもの。このBラインを基準にして、個別学力試験の目標得点率を算出してみると、いずれも56～59%必要なことが分かります。国公立大学の個別学力試験問題を解いたことがありますか。志望校が定まったら、すぐに赤本などで過去問題を見てください。6月、7月段階だと、問題との相性が良くても、せいぜい3割程度しかできないかもしれません。でも、それでいいのです。この時期の目的は、志望校の出題傾向を確認することなのです。傾向をいち早く確認し、11月までひたすら記述力アップに取り組むのです。

